

「電気泳動」投稿規程

「電気泳動」(英名,「Electrophoresis Letters」)(以下,本誌)は,日本電気泳動学会が発行する和文機関誌(オープンアクセスジャーナル)で,日本電気泳動学会編集委員会(以下,編集委員会)の責任のもと,電気泳動及びその関連分野の発展に寄与するために編集される。

1. 論文の種目

本誌掲載論文の種目は,下記の通りに区分する(別表1参照)。

- 1) 一般論文:独創性・新規性があり,かつ,価値ある事実あるいは結論を含む論文をいう。
- 2) 短報:断片的な研究ではあるが,新しい事実や価値のある結論を含む短い論文をいう。
- 3) 総合論文:ある主題に関する著者の研究業績を,これまでに公表した数編の論文の内容を中心にとりまとめて体系化し,新たに執筆された論文をいう。
- 4) 総説:電気泳動及びそれに関連する分野の研究動向を総合的に,体系的に論じたものをいう。
- 5) 技術:技術・方法・機器・試薬・プロトコル等の開発,改良等に関する知見やデータを報告する論文をいう。ただし,知見やデータが二次的情報であっても構わない。
- 6) 症例報告:学術的に貴重と思われる症例について報告する論文をいう。ただし,症例が二次的情報であっても構わない。

(一般論文と短報は原著論文であり,総合論文,総説及び技術は総説型論文である。総説型論文と症例報告の投稿は,原則として編集委員会の承認によるものとする。)

2. 投稿原稿の準備

投稿原稿の作成は下記によるものとする。

- 1) 投稿原稿は電子ファイルでの提出を求めるので,Microsoftのアプリケーション「Word」を用いて作成する([投稿原稿のテンプレート](#) 青字をクリックするとダウンロードされます)。投稿原稿は日本語で横書きとする。専門用語等を外国語で記す場合はアルファベットを用い,数字はアラビア数字を用いる。単位はSI単位系[m, kg, s(秒), A, K, mol,

Hz, V, °C...] やこれらと併用される非 SI 単位系 [min (分), h (時間), d (日), L (リットル) ...] を基本に用いる。

- 2) 論文種目等：論文の種目（一般論文，短報，総合論文，総説，技術，症例報告），タイトル，著者名，著者の所属機関名を記載する。所属機関が複数あるときは，例えば，著者名の右肩に上付きで 1, 2, 3...と番号を付し，番号ごとの所属機関名をすべて記載する。責任著者には所属機関の番号の隣に*印を付す。投稿原稿のテンプレート内にあるフッタには英文タイトル，英文著者名，英文所属機関，責任著者の英文フルネーム，英文所属機関，英文所在地，E-mail アドレスを記載する。
- 3) 英文要旨（SUMMARY）：要旨は論文の要点を英語で明示した 250 単語を超えないものとする。原稿は分かりやすく、文法的に正しい英語で書くこと。英語を母国語としない著者は、投稿前にネイティブスピーカーによるチェックを受けるか、英文校正サービスを利用することを強く推奨する。要旨内では改行しない。図，表，文献等は引用しない。要旨の末尾に論文内容を的確に表す Key words（5 個以内，キープレーズを含む）を英文で記載する。
- 4) 本文：原著論文の本文には，「序論（はじめに）」，「方法」，「結果」，「考察」，「文献」の項目を大見出しとして付けて記載する。必要に応じて「結論（おわりに）」の項目を「文献」の前に加えることができる。また，「結果」と「考察」を組み合わせ，「結果・考察」とすることもできる。総説型論文の本文には，「方法」，「結果」，「考察」の項目を大見出しとして記載する必要はない。ただし，「序論（はじめに）」，「結論（おわりに）」及び「文献」の項目の記載は必須とする。本文枚数の目安は次の通りである。

・ 一般論文・総合論文・総説	4 枚以内
・ 短報・技術・症例報告	3 枚以内

（規定以上に長い論文でも編集委員会で認めた場合に限り掲載することがある。）
 - a) 本文中の大見出し「序論（はじめに）」と「結論（おわりに）」には原則的に中見出し，小見出しは記載しない。
 - b) 化合物名は原則として IUPAC 命名法に従い，日本語で記載する。ただし，元素記号及び簡単な無機化合物の化学式は用いてもよい。

- c) 略語を要旨及び本文に用いる場合には、それぞれ初出の時点で定義する。その場合、正式の名称の後に略語を（ ）内に付記する。タイトル、要旨及び本文において定義をせずに用いることのできる略語を別表 2 に示す。
- d) 外国の人名、会社名等は原則としてアルファベットで表記する。
- e) 本文中に引用する人名は姓だけとし、アルファベットで表記する。敬称は付けない。著者が複数の場合、第一著者の姓のみを引用し、その他は略して「・・・ら」で記す。
- f) 図及び表を本文中で引用する場合は、Fig. 1, Table 1...と記載する。
- g) 引用文献番号は本文中の出所順にその項目の右肩に上付きで^{1,2)}、または 3 件以上の文献を引用する場合は、³⁻⁵⁾のように通し番号を記載する。
- h) 引用文献は本文の末尾に「文献」の項目でまとめて記載する。記載法は米国立医学図書館 (NLM) が刊行している”CITING MEDICINE, 2nd Edition The NLM Style Guide for Authors, Editors, and Publishers” (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK7256/>) に準拠することとする。なお、本誌では、参考文献の管理に EndNote スタイルの使用が可能である。著者は、投稿時に本誌指定の EndNote スタイル を用いて参考文献を整えること。EndNote スタイルファイルは、青字をクリックするとダウンロードされます。

例 雑誌：著者名（全員）．表題．雑誌名．西暦年号;巻数:初頁-終頁（印刷雑誌） または
記事番号（オンラインジャーナル）．

- 1) Kinoshita E, Kinoshita-Kikuta E, Koike T. Separation and detection of large phosphoproteins using Phos-tag SDS-PAGE. Nat Protoc. 2009;4:1513-1521.
 - 2) 木下英司, 木下恵美子, 小池透. Phos-tag 電気泳動を用いた高分子量リン酸化タンパク質の質的・量的変動モニタリング. 生化学. 2010;82:857-862.
- なお、著者が 4 名以上の場合には、筆頭著者 3 名を記した後、「ら」（英語表記の場合は「*et al.*」）を付し、以下の著者名を省略することができる。
- 3) Kinoshita E, Kinoshita-Kikuta E, Takiyama K, *et al.* Phosphate-binding tag, a new tool to visualize phosphorylated proteins. Mol Cell Proteomics. 2006;5:749-757.
 - 4) 木下英司, 木下恵美子, 青木悠里ら. キナーゼプロファイリングのための新しいリン酸アフィニティー電気泳動法. 生物物理化学. 2007;51:199-206.

- 5) Kameyama A, Dissanayake SK, Thet Tin WW. Rapid chemical de-N-glycosylation and derivatization for liquid chromatography of immunoglobulin N-linked glycans. PLoS One. 2018;13:e0196800.

例 単行本：和書，洋書共に著者名（全員）．表題．編者名（全員）．書名（巻数版数）．
発行地名：発行社名；西暦年号．頁数．

- 1) Kinoshita-Kikuta E, Kinoshita E, Koike T. Phos-tag technology for kinomics. In: Kraatz H-B, Martic S, editors. Kinomics: Approaches and applications. Weinheim: Wiley-VCH Verlag GmbH & Co. KGaA; 2015. p. 195-210.

- 2) 木下英司, 木下恵美子, 小池透. Phos-tag ゲルによるリン酸化タンパク質の分離・同定法. In: 中村和行, 西尾和人, 西村俊秀, 編. 臨床プロテオミクス バイオマーカー探索から個別化医療へ. 東京: 金原出版; 2012. p. 271-274.

- 5) 表：表は原則として英文で作成する。表には縦罫線を用いない。表題は表の上部に，説明は表の下部にそれぞれ記載する。
- 6) 図の表題と説明：図の表題及び説明は原則として英文で作成する。図を転載する場合は，その転載許可を著者において取得し，その旨を当該箇所に明記すること。例えば，次の通りである。

Fig. 1 Schematic diagram of analytical system

1: DW; 2: EtOH; 3: MeOH; 4: DMSO. Reprinted with permission from Ref. 16 © (2014) Wiley-VCH Verlag GmbH & Co. KGaA, Weinheim.

日本電気泳動学会は著者の無断転載等によって生じるすべての損害に関してその責を免れる。

- 7) 図：オンライン発行用の原図として不適当な場合は修正を求めることがある。図は英文で作成する。カラー図も掲載可能である。
- 8) 電気泳動パターンを画像として載せる際には画像の処理は極力避け，切り貼りや濃淡の強調はデータの解釈に影響を与えない範囲に留めること。画像の切り貼りを行った場合は，本文中もしくは図の説明に明記するか，図の中に画像の切り貼りの箇所が判別できるように対処しなければならない。

- 9) 補足資料は、読者が論文を理解する上で不可欠ではないが付加的な資料として提供される。補足資料には、データセット、図表、動画ファイル、音声クリップ、3D 構造、その他関連する補助的なマルチメディアファイルなどが含まれる。補足資料は、本文中で適切に引用する（例：Supplementary Fig. 1、Supplementary Table 1 など）。また、それぞれの補足資料には説明文（レジェンド）を付けなければならない。補足資料も査読の対象となるため、著者は原稿提出の際には最終版を提出しなければならない。原稿受理後は、著者は補足資料に変更を加えることはできない。
- 1 0) 謝辞：著者は、必要に応じて論文の執筆や準備に協力したが、著者となる資格のない人について、簡単に謝辞を述べる「謝辞」の項目を「文献」の前に加えることができる。また原稿の「謝辞」の項目に研究助成金について、助成を受けた研究機関、研究助成機関、研究助成番号、研究助成機関の所在地（都市名と国名）を記載する。
- 1 1) データ利用可能性（Data Availability Statement）：著者は、論文に記載されたあるいは付随するデータの利用可能性について記載することが推奨される。論文で使用されたデータがどこで入手できるかの情報を明記し、可能な場合はデータへの直接リンクを含めてください。研究データが公開されていない場合は、その旨を明記するとともに、データへのアクセス条件がある場合は併せて記載する。
- 1 2) 和文要旨：論文の要点を日本語で明示し、400 字を超えないものとする。和文要旨は論文には掲載されないが、J-STAGE より公開される。

3. 投稿に際しての注意事項

原稿の投稿に際しての注意事項は下記の通りである。

- 1) 投稿原稿における研究については、ヘルシンキ宣言、実験動物の飼養及び保管等に関する基準（昭和 55 年 3 月、総理府告示第 6 号）、各機関、施設あるいは専門研究分野で定められた実験並びに研究指針及び基準等を遵守したものでなければならない。人を対象とした研究を含む論文においては、研究参加および研究成果の公表に関するインフォームド・コンセント取得手続きについて記載しなければならない。動物または動物由来の材料を用いた研究を含む論文においては、試料の収集および研究が著者の所属機関の承認を

得ており、当該機関の指針・基準に準拠して実施されたことを示す記述を含めなければならない。

- 2) 本誌では、透明性の観点から全ての著者に対し、投稿原稿における研究内容に関して、本文「文献」の項目の直前に著者らの利益相反状態について開示、記載しなければならない。開示すべき利益相反状態が無い場合もその旨を記載するものとする。利益相反は、著者の公平な研究の実施および報告に影響を及ぼす可能性のある状況が顕在する/認識されている/潜在する場合に生じる。利害の衝突の可能性としては、商業的または財務的な利害の競合、商業的な所属、コンサルティングの役割、株式の所有等が例として挙げられる。著者は、自分の論文のための全ての資金の出所を研究助成/謝辞のセクションに記載する必要がある。
- 3) 個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続が必要な研究内容に関して、それらの対策と措置について開示、記載しなければならない。
- 4) 採否が決定するまで、投稿した論文と同一主旨の論文を他誌またはプレプリントサーバーに投稿することは禁止する。また、他誌に投稿中の論文は受け付けられない。
- 5) 投稿資格として、日本電気泳動学会の会員、非会員を問わない。
- 6) 投稿に当たって著者はすべての論文に対して 200,000 円を投稿料として負担する。ただし、第一著者、または責任著者（corresponding author）が日本電気泳動学会の会員（正会員及び準会員のみ）、あるいは編集委員会より投稿依頼のあった著者の場合、その負担は免除される。
- 7) 原稿は、上記 2. の 2) ～ 7) を 1 つの PDF ファイルとして、E-mail にて本誌編集係（den-ei@nacos.com）へ投稿すること。ただし、1 度のメール容量は 10 MB までに収めること。10 MB を超える場合は、編集係に相談すること。編集係の連絡先は下記の通り。

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る

中西印刷株式会社内

「電気泳動」誌編集係

TEL: 075-441-3155, FAX: 075-417-2050, E-mail: den-ei@nacos.com

- 8) 原稿の受付月日及び受付番号は、E-mail で責任著者に通知する。
- 9) 原稿の執筆、体裁、投稿、送付方法等に関し疑問のある場合、または原稿投稿後 10 日以内に受付通知がない場合には、上記の本誌編集係に問い合わせること。

4. 論文の審査

- 1) 論文の審査は学会機関誌に関する規定に従って編集委員会が行い、編集委員長は著者に審査結果を通知する。
- 2) 審査の結果掲載が決定された場合、編集委員長は著者に掲載決定を通知する。その通知日を受理月日とする。
- 3) 受理された論文は、最終原稿（Word で作成したファイル）と図（カラー 300 dpi, グレースケール及び線画 600 dpi）の電子ファイルを上記の本誌編集係に提出する。

5. 校正及び正誤訂正

- 1) オンライン発行前の初校は著者、再校以後は編集委員会が行うことを原則とする。
- 2) 著者の初校は印刷上の誤り（編集委員会が認めた軽微な誤り）以外の訂正はできない。
- 3) オンライン発行後 6 ヶ月以内に著者からの訂正の申し出があった場合は、次のように取り扱われるものとする（7 ヶ月以上経過後の著者からの申し出は一切受け付けない）。
 - a) 印刷上の誤りについては、その旨を記載した訂正文等を掲載する。
 - b) 印刷上の誤り以外の訂正、追加等は一切認めない。

6. 守秘義務

本誌は未発表原稿の機密性を保持する。本誌へ原稿を投稿することにより、著者は原稿に関する全ての連絡（編集部、編集委員、査読者からの連絡）の機密事項を厳守することを保証するものと見なす。

7. セルフアーカイビング（グリーン OA）方針

著者は、セルフアーカイビング（グリーンオープンアクセス）として自身の論文をオンライ

ンリポジトリに登録できる。本誌では、原著論文の著者に対し、本誌からの出版後すぐに機関リポジトリまたは公開リポジトリに論文の著者最終稿を登録することを許容している。

8. 著作権、オープンアクセス、掲載料について

オープンアクセス方針

本誌は、オープンアクセスジャーナルである。すべての掲載論文は、Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivs 4.0 International (CC BY-NC-ND 4.0)ライセンスのもとで公開される。

著作権とライセンス

著者は、著作権譲渡契約（Copyright Transfer Agreement : CTA）に署名し、論文の著作権を日本電気泳動学会に譲渡する必要がある。譲渡後、学会は論文を CC BY-NC-ND 4.0 ライセンスのもとで公開する。このライセンスにより、ユーザーは日本電気泳動学会や著者の事前承諾を得ることなく、論文を非営利目的で配布および複製することが可能であるが、改変は認められない。また、原著者および出典の適切な表示が求められる。詳細は Creative Commons ライセンス を参照すること (<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>)。

掲載料（Article Processing Charge : APC）

査読管理、コピー編集、組版、オンライン公開などの費用を賄うため、著者はすべての論文に対して掲載料（APC）として 200,000 円（税込）を負担する。ただし、第一著者、または責任著者（corresponding author）が日本電気泳動学会の会員（正会員及び準会員のみ）、あるいは編集委員会より投稿依頼のあった著者の場合、その負担は免除される。

9. 別刷り

別刷りは希望者のみへの実費頒布とし、希望部数（最小 50 部以上 10 部単位）を著者校正の際に所定の申込書で注文できる。

別表1 掲載論文の各種目分類の目安

論文種目	電気泳動及び関連分野の発展に寄与する	技術的に新しい,あるいは,技術の応用によって得られた結論に価値がある	データが完備している	データが断片的である	投稿	最大原稿枚数の目安 ^{*2}
一般論文	○	○	○		通常形式	4
短 報	○	○		○	通常形式	3
総合論文	○	著者のある主題に関する研究業績をとりまとめて体系化したもの			編集委員会の承認 ^{*1}	4
総 説	○	電気泳動及びそれに関連する分野の研究動向を総合的,体系的に論じたもの			編集委員会の承認 ^{*1}	4
技 術	○	技術・方法・機器・試薬・プロトコル等の開発,改良等に関する知見やデータの報告			編集委員会の承認 ^{*1}	3
症例報告	○	学術的に貴重と思われる症例についての報告			編集委員会の承認 ^{*1}	3

*1 通常の投稿も受け付けるが,その場合,編集委員会が認めたものに限る。

*2 「電気泳動」投稿規程の2. 4) 参照。

別表2 題名, 要旨及び本文に用いることのできる略語

Bis	<i>N,N'</i> -methylenebisacrylamide
bp	base pairs
%C	cross-linking agent (g/100 mL)/%T
CBB	Coomassie Brilliant Blue
cpm	counts per minute
1D	one-dimensional
2D	two-dimensional
Da	dalton (molecular mass)
2DE	two-dimensional gel electrophoresis
DIGE	fluorescence difference gel electrophoresis
DGGE	denaturing gradient gel electrophoresis
DMEM	Dulbecco's modified Eagle medium
DMSO	dimethyl sulfoxide
DNA	deoxyribonucleic acid
DTT	dithiothreitol
ECL	enhanced chemiluminescence
EDTA	ethylenediaminetetraacetic acid
EGTA	ethylene glycol- <i>bis</i> (β-aminoethylether)- <i>N,N,N',N'</i> -tetraacetic acid

ELISA	enzyme-linked immunosorbent assay
GST	glutathione-S-transferase
HE	hematoxylin and eosin
HEPES	<i>N</i> -(2-hydroxyethyl)piperazine-2'-(2-ethanesulfonic acid)
HPLC	high-performance liquid chromatography
IEF	isoelectric focusing
Ig	immunoglobulin
IP	immunoprecipitation
IPG	immobilized pH gradient
IPTG	isopropyl- β -D-thiogalactopyranoside
kbp	kilobase pairs
kDa	kilodalton (molecular mass)
LC	liquid chromatography
MALDI-MS	matrix-assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry
Mbp	megabase pairs
MES	2-(<i>N</i> -morpholino)ethanesulfonic acid
MOPS	3-(<i>N</i> -morpholino)propanesulfonic acid
M_r	relative molecular mass (dimensionless)
MS	mass spectrometry
MS/MS	tandem mass spectrometry
m/z	mass-to-charge ratio
NMR	nuclear magnetic resonance
NP-40	Nonidet P-40
OD	optical density
ORF	open reading frame
PAGE	polyacrylamide gel electrophoresis
PBS	phosphate-buffered saline
PCR	polymerase chain reaction
PEG	polyethylene glycol
pI	isoelectric point
PMSF	phenylmethylsulfonyl fluoride
PVDF	polyvinylidene difluoride
Q-TOF	quadrupole time-of-flight

RNA	ribonucleic acid
RIA	radioimmunoassay
rpm	revolutions per minute
RT-PCR	reverse transcriptase-PCR
SD	standard deviation
SDS	sodium dodecyl sulfate
S/N	signal-to-noise ratio
SSCP	single-strand conformation polymorphism
ssDNA	single-stranded DNA
%T	total gel concentration (acrylamide plus cross-linking agent; g/100mL)
TBS	tris-buffered saline
TEMED	<i>N,N,N',N'</i> -tetramethylethylenediamine
TOF	time of flight
Tris	tris(hydroxymethyl)aminomethane
